

今年5月5日の昼間1～2時間 九州の電力は全て再エネだった！

小坂正則

4月27日の日経新聞に、「4月8日の九州管内の電力は太陽光発電が8割を賄った」という記事が出ていました。そこで、私は5月5日（土）の九電の「電力予報」とにらめっこをして、どれだけ太陽光発電が賄うかを監視していました。ピーク時で太陽光発電が83%を賄っていました。

ただ、非常に残念なことに、それ以外の再エネ電力の表は出てきませんので、実際に再エネ電力の発電量は九電の資料からは分かりません。もちろん九州電力は日々分かっているし、九電社員なら知り得るのですが、私たちには教えてもらえないでしょう。

なぜなら、そんなセンセーショナルなことを公表すれば「原発なしでもやっていけるじゃん」という世論喚起へ誘導させてしまう可能性が大だからです。

では、太陽光発電だけをなぜ「電気予報」で知らせているのかということ、2015年から、太陽光発電買い取りの電力を一時的に切り離すという契約が、電力会社と設置事業者の間で交わされているのですが、それが実際に実行されそうだからです。九州管内では今年3月末までに太陽光発電の設置が785万kwに達したそうです。九電は817万kwしか連携できないと言っていますので、あと30万kwしか九州では太陽光発電を設置できないことになります。

これから再エネ電力がどんどん増えていく！

5月5日の12時5分には太陽光発電の電力は最大で618万kw発電しました。すごい量です。発電効率が78%です。これもすごい数字です。そして12時5分の使用した電力が743万kwでした。太陽光発電の割合が83%に達したのですが、それ以外の再エネ電力がいくらなのかは、計算して予想するしかありません。太陽光発電以外の電力が125万kwになります。そこで私は昼間から他の再エネ電力がいくら発電しているかをチマチマと計算しました。九電の資料から、地熱が22万kwとありますので、地熱はフルに発電していると仮定します。本当は90%くらいの方が現実的ですが。風力発電の設置数が47万kwですが、当日は風がありませんので、ここは風力の設備利用率は20～30%と言われてしますので、25%として、12万kwとします。バイオマス発電は経産省によると、以下の通りです。

九州経済産業局によると、FITが始まった2012年7月以降、管内の木質バイオマス発電所の認定件数(2015年10月末現在)は21件で出力計93万5千kw。5千kw級が多いが、総出力は九州電力川内原発1基分(89万kw)と同程度だ。うち10件(出力計42万6千kw)が現在までに運転を開始した。

ところで現在どれだけが発電しているかは分かりませんでした。ただ、2年半たっていますので、そこそこは動いているでしょう。実際に、大分県内だけでも、2万kwが増えていますので、70万kwとしました。

問題は水力発電です。九電の水力発電は358万kwあるそうですが、それは入れません。

なぜ入れないかと言えば、私は九電が嫌いだから入れないだけです。というのはウソで、水力は小回りが利くので、太陽光発電などが余るような昼間は動かさなくて、その分、夜動かせばいいからです。しかし、九電以外の各県が持っている水力発電は電力を九電などに売るので、そんな調整をする必要はありません。ですから、県企業局の持っている水力発電は全部入れました。大分県が73700kw、宮崎県が159000kw、熊本が54200kw、福岡県が14000kwです。全部で30万kwとなりますが、年間平均稼働率が7割前後と言われてしますので、7割の設備利用率として21万kwとしました。ただ、冬場は稼働率は落ちますが春からは上がります。

太陽光発電	618万kw
バイオマス発電	70万kw
水力発電	21万kw

風力発電	12 万 kw
地熱発電	22 万 kw
合計	743 万 kw

5月5日の昼間の1～2時間は九州の電力は火力も原子力も使わなくてやっていけたのです。（推定）これからはどんどん再エネ率が上がってきます。ということは原発も火力もなくとも私たちは暮らしていける可能性に向かって進んでいるのです。もちろん九電の持っている水力発電（合計 358 万 kw）も昼間ゼロということはないでしょうから、私の再エネ設備利用率の推定値が少し大きいとしても、「九州の住民は5月5日の昼間の1時間は最低でも再エネ 100%の暮らしができた」のです。

実際の電力の使われ方はどうなったの？

でも、みなさん「何かへんだなあ～」と思うでしょう。だって、私の嫌いな川内原発2基と玄海原発3号は動いていますので、この3つで 296 万 kw はどこに行ったんだろうと思うでしょ。実はその大半の 270 万 kw は系統連携線で本州へ送ったのです。それにしても天然ガス発電や石炭火力などもありますよね。それらの運転を止めることのできない電力は揚水発電へ送ったのです。揚水発電合計 230 万 kw ありますから、今夜は揚水でほとんどの電気が賄えるでしょう。

せっかく作った太陽光の電気を捨てる！？

九電は「太陽光発電をもうこれ以上受け入れられない」と言っています。しかも、電力が余るようになったら、次々に太陽光発電の電力を切っていくというのですが、そんなことをさせてはなりません。まずは本州への連携線を太くすべきですし、まだまだ太陽光発電もバイオマスも風力も連携させるように要求しましょう。私たちは再エネ電力 100%の暮らしに向けて進むのです。だから石炭火力も原発もお断りです。

